

No3 春期第4講 予習確認テスト 助動詞

氏名() 日時(4月3日) 得点(/100)

次の文を、[]内の指示に従って書きかえなさい。

(1) She plays tennis every Sunday. [下線部を tomorrow にかえ, will を用いて未来の文に]

(2) He can swim across the river. [疑問文に]

2 次の日本語に合う英文になるように、()に適する語を書きなさい。

(3) 電話をお借りしてもいいですか。— どうぞ。

() I use your telephone? — Sure.

(4) 君はそれを見てもいいですが、触ってはいけません。

You () see it, but you ()() touch it.

(5) 彼の娘は美しいにちがいありません。

His daughter ()() be beautiful.

(6) そのニュースは本当のではありません。

The news ()() true.

(7) あなたがたはお年寄りに親切にするべきです。

You ()() kind to old people.

3 次の各組の文がほぼ同じ内容になるように、()に適する語を書きなさい。

(8) ① He must study English hard.

② He ()() study English hard.

(9) ① Must I do it right now?

② () I ()() do it right now?

(10) ① My sister cannot swim.

② My sister is ()()() swim.

助動詞を使うと、「できる」「してもよい」「しなければならない」「～かもしれない」「～すべきだ」などの気持ちや判断を表すことができます。今回の範囲では、can, may, must, should を中心に学びますが、あわせて could, would, might, shall, had better, need のはたらきにも注意します。まず大切なのは、助動詞のあとでは動詞は必ず「もとの形」になることです。助動詞のあとに三単現の -s や過去形は置きません。

can は「～できる」という能力を表します。疑問文では can を文頭に出し、否定文では cannot または can't を使います。また、can には「～のほずがない」という意味で使われることもあり、強い否定の判断を表します。can は be able to に言い換えることができます。ただし、be able to は be 動詞を使う形なので、主語や時制に合わせて am / is / are / was / were などを選ぶ必要があります。

could は can の過去形として「～できた」を表すほか、現在のことで、依頼・申し出・可能性などを、よりやわらかくひかえめに表すときに使われます。つまり、形は過去形でも、意味は現在を表すことがあります。これは would や might にも共通する大切な考え方です。

may は「～してもよい」という許可や、「～かもしれない」という意味を表します。許可を求める文では May I ~ ? の形をよく使います。また、may は可能性を表すときにも使います。否定では may not を使います。

might は may の過去形として使われることもあります。現在のことについても、「～かもしれない」という意味を、may よりややひかえめに表すことがあります。ここでも、形は過去形でも、意味は現在である場合があります。

shall は Shall we ~ ? と Shall I ~ ? が中心です。Shall we ~ ? は「いっしょに～しましょうか」という勧誘を表し、Shall I ~ ? は「私が～しましょうか」という申し出を表します。応答も重要で、Shall we ~ ? には Yes, let's. などと答えることが多く、Shall I ~ ? には Yes, please. や No, thank you. などと答えるのが基本です。

must は「～しなければならない」という強い必要を表します。否定文の must not は「～してはいけない」という禁止です。ここはとても重要で、「～しなくてもよい」という意味ではありません。また、must には「～にちがいない」という強い推量の意味もあります。

must は have to に言い換えられることが多く、どちらも「～しなければならない」という意味を表します。ただし、形の作り方が違います。must は助動詞なので、あとには動詞のもとの形が続きます。一方、have to は一般動詞を使った形なので、主語や時制によって have / has / had を変えます。また、疑問文や否定文でも違いがあります。must を使う疑問文は must を前に出しますが、have to を使うときは do / does / did を用います。

さらに, must にはふつう過去形や未来形がないため, 過去は had to, 未来は will have to を用います。つまり, 「~しなければならなかった」は had to, 「~しなければならいでしょう」は will have to で表します。この点でも, must そのものをそのまま過去形・未来形にしないことが重要です。

特に注意したいのは, mustn't と don't have to は意味がまったく同じではないことです。mustn't は「してはいけない」という禁止です。一方, don't have to は「する必要はない」という不必要を表します。つまり, mustn't は「だめ」, don't have to は「しなくてもよい」です。この違いは非常に大切です。

should は「~すべきだ」という意味を表します。助言や忠告を表すときによく使います。should のあとも動詞はもとの形です。had better は「~したほうがよい」という意味ですが, 実際には「そうしないとまずい」という警告の気持ちを含むことがあります。形に had が入っていますが, 過去ではなく, 現在や未来のことについて使います。したがって,

had better のあとも動詞はもとの形です。

解答・解説

(1) She will play tennis tomorrow.
「every Sunday」を「tomorrow」にかえ、「will を用いて未来の文に」とあるので, 未来を表す will を使います。助動詞 will のあとでは動詞は原形になるため, plays ではなく play にします。したがって, She will play tennis tomorrow. となります。

特に注意したいのは否定で, had better not V の形になります。don't better や had not better とはしないので, 書きかえのときに気をつける必要があります。

would は will に関係する語で, 「~するつもりだった」「~だろう」といった意味のほか, 現在のことで, 依頼・申し出・意志などを, よりやわらかくひかえめに表すことがあります。つまり would も, 形は過去形でも, 意味は現在を表すことがあります。

need は「必要」という意味を表しますが, 助動詞として使う need と, 一般動詞として使う need があります。助動詞の need は主に疑問文・否定文で使われ, need not V の形で「~する必要はない」を表します。一方, 一般動詞の need は need to V の形をとり, 否定文では don't need to V となります。したがって, don't need to V と need not V は, ほぼ同じ意味の書きかえとしてよく使われます。ただし, 形は異なるので注意が必要です。助動詞の need のあとには to をつけず, 一般動詞の need のあとには to が必要です。

(2) Can he swim across the river?
can を使った文を疑問文にするときは, can を文頭に出します。助動詞 can のあとでは動詞は原形のままなので, swim はそのままです。したがって, Can he swim across the river? となります。

(3) May

「電話をお借りしてもいいですか」は、許可を求める表現です。許可を求めるときは May I ~ ? を使います。答えの Sure. も、許可を表す流れに合っています。したがって、May が入ります。全文は May I use your telephone? — Sure. です。

(4) may / must not

「見てもいい」は許可なので may を使います。「触ってはいけません」は禁止なので must not を使います。ここで大切なのは、must not は「～してはいけない」であり、「～しなくてもよい」ではないことです。したがって、may / must not が入ります。全文は You may see it, but you must not touch it. です。

(5) must

「～にちがひありません」は、強い推量を表す must を使います。主語が His daughter で、そのあとに be beautiful と続く形です。助動詞のあとでは動詞は原形なので、be のままにします。したがって、must が入ります。全文は His daughter must be beautiful. です。

(6) cannot be

「本当のではありません」は、強い否定の推量なので cannot be を使います。この cannot は「できない」ではなく、「～のはずがない」という意味です。したがって、cannot be が入ります。全文は The news cannot be true. です。

(7) should be

「～するべきです」は should を使います。また、kind は形容詞なので、「親切である」とい

う形にするため be が必要です。助動詞 should のあとでは動詞は原形なので、be を用います。したがって、should be が入ります。全文は You should be kind to old people. です。

(8) has to

must は have to に言い換えることができます。主語が He なので、have ではなく has を使います。したがって、has to が入ります。全文は He has to study English hard. です。must と have to は意味は近いですが、have to は一般動詞を使った形なので、主語に応じて have / has / had が変わる点に注意します。

(9) Do / have to

Must I ~ ? は、Do I have to ~ ? に言い換えることができます。have to を使った疑問文では、文頭に Do を置きます。したがって、Do / have to が入ります。全文は Do I have to do it right now? です。must を使う疑問文と、have to を使う疑問文では、文の作り方が異なることを押さえておきましょう。

(10) not able to

cannot は be not able to に言い換えることができます。文にはすでに is があるので、そのあとに not able to を入れます。したがって、not able to が入ります。全文は My sister is not able to swim. です。can と be able to は書きかえでよく出るので、セットで覚えることが大切です。